

2022年度

自己評価の結果及び改善策

1. 幼稚園の保育目標

- ・神様が創造された子どもたちは愛されるべき大切な存在であるというキリスト教の価値観を基盤とした教育と保育
- ・環境を通して行う教育と保育の「3つの柱」
 - 1 豊かな感性を育てる
 - 2 健やかな心と体をつくる
 - 3 優しい心、思いやりの精神を養う

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って、自己点検・自己評価を実施することにより、組織経営及び園体制の見直し、や新たな課題改善に取り組む。同時に教職員の質向上に向けた研修会参加促進、園内研修を行い幼児理解を深めながら、地域に開かれた信頼ある幼稚園を目指す。

3. 評価項目の達成および取り組み状況

◎「3. 4」の評価結果の表示方法

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが成果が十分でない

評価項目		結果			理由
I 保育計画	1. 園の保育方針・保育目標を理解し共感している	A 15	B 14	C	・毎日の計画は年間計画に沿って立てているが、子どもたちの様子や育ちによって臨機応変に対応することが多かった。各担任が集まって行う週案打ち合わせは今後も大事にしたい。 ・指示された内容を正確に把握してサポートできるように取り組みたい。 ・担任の先生の週案を元にその時その場所での、子供たちとの必要な関わり方を考え、安心して過ごす事が出来る様に配慮しながら、みんなと一緒にどこ

	2. 園の保育目標は施設や地域の特色を活かしているか	A 14	B 15	C	までできるのか、子供たちが楽しいと感じられているのかを常にかんがえながらかわるようにしている ・1年間の行事を元にいつから準備するのかをしっかりと決め日々の保育の中のあそびの一つや積み重ねによって無理なく子供たちが参加できるように工夫していくことが大事だと思う。
	3. 園の保育目標は社会の要望や保護者の願いを反映しているか	A 12	B 17	C	・担任と情報を共有するよう務め、担任の計画の一助となるように心がけている。 ・個々の発達に沿って達成可能な具体的な計画をたてている。 ・担任が作成した保育計画をクラスに入る職員で共有できているので良いと思います。 ・年間の計画に沿って、日々の保育が計画されているのか疑問に思うことがある。行き当たりばったり、思い付きにならないように日々計画を見直しながらすすめていく必要があると思う。
	4. 園の保育目標について全職員で共通理解を図っているか	A 9	B 19	C 1	・主任として、確認をする立場でいるがキリスト教保育にそっているか、年齢に適しているか、等々確認しながら職員と話し合っている。 ・本来なら、もっと時間をかけて、丁寧に計画を立てることができたらと思っている。 ・計画性をもって取り組み、日々の振り返りや保育会議など細かな話し合いの中で修正しながら取り組んでいる
Ⅱ 保育実践	1. 園の保育方針を理解して実践しようと努めている	A 13	B 16	C	・安心して過ごすことが大前提にあり、子どもと向き合うことから見えてくるものがたくさんあり実践につながった。 ・担当先生から役割分担など明確に指導して頂き、他の先生方と共有しながら言葉や気持ちを大切に接するように心掛けている。
	2. 年間保育目標を意識して保育に取り組んでいる	A 9	B 18	C 2	・子供達への声かけが上手く出来ていないので努力したい。 ・支援の必要な子との関わりが中心になる中で、親も子も安心して楽しく過ごせることを1番に考えて関わりをもつようにしている

	3. 年齢ごとの保育目標を常に意識して行動している	A 11	B 17	C 1	・ただなんとなく過ごすのではなく常に新しいことを取り入れ子供たちが遊びを展開していく手助け、工夫を考えていかなければと思う。 ・保育計画と同様に実践に努めている。 ・担任の方針・目標を確認しながら、クラスの保育者と情報を共有して保育をしている。 ・未満児クラスは職員の数も多いので共通意識を持てるように口頭でも密に伝達し合えていたと思います。
	4. 素材・用具を適切に活用し保育している	A 12	B 16	C 1	・保育者のやりたいことをやるだけではなく、しっかり園としても保育の在り方を考える必要があると思う。 ・一人一人の子ども達を大切にしているか、ねらいにそって活動できているか、子ども達主体に行っているかなど、振り返り見直しをするように職員と話し合っている。 ・計画的な実践と状況等に合わせ柔軟性を心がけている
Ⅲ 環境づくり	1. 子どもの発達を促すための環境づくりを心掛けている	A 12	B 16	C 1	・コロナ感染対策としても日頃からの整理整頓、換気、消毒に心がけた。 ・噛みつきが多いクラスだったのでゆったり遊べるスペース作りやおもちゃの提供に苦心した。小さいクラスでのホール遊びがもう少し多くできると良い。 ・保育に地域の自然や社会環境は切り離せない重要なものなので小動物のふれあいが出来ると良いと思います。
	2. 常に遊具や教具の安全確認を行ない、定期的に清浄・消毒している	A 17	B 12	C	・子どもたちの遊びが展開していける様、さりげなく場面設定をしたり、ゆったり出来る場所作りをしたり、まわりに危険がないかを常に意識するようにしている ・子供たちが創造力をふくらませる素材、道具、絵本などを考えてたくさんの経験をさせてあげられるよう努力をしていきたい。 ・こども達が安心安全に過ごせるように、保育室の

	3. 子どもの姿を見ながら計画的に、常に臨機応変に環境づくりを行なっている	A 17	B 12	C	整理整頓をし、常に清潔な環境づくりを行なっている。 ・コロナ禍のため、衛生面での環境づくりに努めている。疾患を有している園児も多く、園児・職員が安心して幼稚園生活を送られるようにも努めている。また保育者として他の職員との関係性を良好に保つように努めている。 ・子どもが好きな遊びをじっくり遊べるように配慮されて、さまざまな体験ができていたと思います。 ・今の子ども達に必要な環境、子ども達から作り上げる環境、その時々で環境づくりは違っていて、一番は安全な環境づくりを心がけている。
	4. 保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちの良い保育室づくりを心掛けている	A 20	B 9	C	・小さな子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを担当中心に努めている。設備や遊具の点検など、不具合が見つけた時は迅速な対応により、解決できている。また、担当する職員のおかげで清掃が行き届いているが、細かな部分での整理整頓など一人一人が意識する大切さを忘れないようにする。 ・個々それぞれ違う子どもたちが皆生き生きのびのび安心して過ごせる環境構築に努めていく
	1. 一人ひとりを大切にして関わっている	A 23	B 6	C	・不安を強く感じる子、待てない子、自我が強い子などが多く、子どもを理解することや気持ちを満たしてあげる事など考えさせられることが多かった。今後も子どもたちと向き合いながら楽しく関わっていききたい。 ・今年度は3歳児クラスの補助で入らせて頂き、子供たちとの会話でのやりとりも楽しみになりました。遊びの幅もぐんと広がり、クラス全員でゲームをし、お友達とのやりとりを楽しむ姿があり、赤ちゃんクラスだった子供たちの成長を感じます。その中で、物の貸し借りが上手く出来なかったり、悔しくて泣いたり、怒ったり…という場面もあり、これまでのクラス以上に、気持ちを聞いて共感したり、導いたりする事の大切さも実感しています。子供たちの様々な思いに、いつでも耳を傾ける用意をしておこう、と心に刻んで補助を務めていきたいです。 ・信頼関係を築く事を心掛けながら、子供達の立場、目線で関わり方を常に考えています。
	2. 一人ひとりの思いを受け止め、その思いを実現させるよう努めている	A 22	B 6	C 1	
IV 子どもへの関わり					

	3. 一人ひとりの子どもの目標と課題を明確にし、見通しを持って関わっている	A 15	B 13	C 1	・支援の必要な子との関わりが中心になるなかで、親も子どもも安心して、楽しく過ごせるかを1番にかんがえてかかわりをもつようにしている ・個々の成長、個性にあった対応、かかわりを大事にするという気持ちを常に意識していきたい。 ・丁寧な言葉かけを心がけ、愛情を持って関わっている。 ・一人ひとりに愛情を注いでいる。その愛情が園児に伝わり、安心感や信頼につながるようにしたい。
	4. 一人ひとりの子どもと同じ目線で聞き、丁寧に関わっている	A 17	B 12	C	・個々の発達によって対応を変え、気持ちを受け止める保育に努めています。 ・キリスト保育を心がけ、一人一人大切に愛情を持って関わりたいと思っている。 ・他の保育者との意見や情報交換を通して連携をはかり、多面的に子どもの行動を捉える。 ・同じ目線、心に寄り添って、愛情深い関わりを大切にする
V 保護者対応	1. 保護者に対して丁寧な言葉遣いと気持ちの良い対応を心掛けている	A 16	B 13	C	・個性的な保護者が多く他の職員との連携や園長に対応してもらう場面もあったが、気持ち良いコミュニケーションに務めた。連絡帳でのやりとりも多く、お家での様子などもわかりやすかった。 ・今年度のクラスになり、初めて送迎車に乗る業務を経験し、改めて保護者の方々との関わり大切さを感じました。幼稚園とご家庭の間に子供たちがいて、保護者の皆さんとの関係を日々のやりとりを通して少しずつ積み重ね、安心して園に送り出して頂けるように丁寧に関わっていかなければ…と思っています。
	2. 送迎時に子どもの姿を必ず伝えている	A 17	B 10	C 2	・直接保護者との関わりは少ないのですが、コミュニケーションを大切に誰に対しても笑顔で元気よく挨拶することを心掛けています。 ・コロナ感染予防の為ほとんど会う機会がなかったが、園で安心して楽しくて過ごす子供の様子から、保護者が安心して子どもを園に通わせてくれたらの

	3. 保護者に子どもの伸びている所や課題を伝え、連携を取っている	A 11	B 16	C 2	思いの中で過ごしています ・子供の様子を伝えて保護者の不安に寄り添えるような対応、言葉選びを意識していきたい。 ・今はあまり保護者と対応する機会がないが、特定の子にはデイサービスの方に、その日の様子を伝えて保護者にも伝えてもらうよう話している。 ・当園に入園してよかったと信頼していただけるよう丁寧に対応するよう心がけている。園長や主任、担任と情報共有しながら対応している。 ・丁寧に対応し、自分が聞いた情報は必ず担任に伝わるようにしました。 ・丁寧に親切に信頼をしてもらえよう対応していきたい。
	4. 来園者に対して自分から気持ちの良い挨拶をしている	A 22	B 7	C	・0.1.2歳児クラスでは、その子の初めての姿を目にする機会が多い。しかしつたえかたによっては行き違いが起こることも。保護者と保育者が一緒に成長を喜びあい、感動を分かち合える関係を毎日の丁寧なかかわりの中で築いていけるようにする。 ・勤務時間の都合で保護者との関わりがほとんどないが、お会いした時にはその日の様子や出来事などを伝えるようにしている。 ・しっかり耳を傾け、心開き、誠実に対応していく
VI 組織の一員として	1. 提出物などの期限を守っている	A 18	B 9	C 2	・聖ルカ幼稚園の職員としての自覚を常に持ち、自己研鑽に努めながら他の職員との連携を大事にして協働していきたい。 ・子供たちとの園での時間は、長い人生の一時期ですが、その時間が楽しいものになるようなサポートをしていきたいと思います。この園で良かった、と親子で感じて貰える時間を共有出来るように頑張りたいです。 ・幼稚園の保育理念や方針を正しく理解し、自覚と責任感を持って取り組みたい。
	2. 他のクラスや園全体のことに気配っている	A 11	B 17	C 1	・子ども事を1番に考え、自分の置かれている立場をしっかり意識して、他の先生たちを振り回す事がないよう、協力し理解しあって保育者として高めあっていけるように、これからも関わっていきたいと思う ・常に相手の気持ちを考え、普段の雑談を大事にして悩みを聞き話せる雰囲気大事にしていきたい。 ・気がついた事は、出来るだけ伝えるよう心がけ、組織の一員として協力しながら勤めている。 ・自分の役割を自覚し、必要な情報を提供し意見を

	3. 必要な報告・連絡・相談を行っている	A 19	B 10	C	伝えている。組織の一員として協調性を持ちながら、円滑なコミュニケーションをとるよう常に心がけている。 ・園の一職員としての自覚を持って仕事に携わりたいと思います ・これからも日々の保育を大切にし、共通理解を持って保育にあたれるようにしていきたいと思います。
	4. 個人情報の取扱いに注意している（USB/写真/連絡帳など）	A 24	B 5	C	・平等に親切にみんながチームワークよく、仕事ができるように心がけている。 ・職員全員がひとつのチームであることを自覚するように心がけ、他の意見を素直な気持ちで聞いて自分の意見を述べるように努めている。 ・キリスト教保育の精神をしっかりと統率しながら、同僚同士気持ちよく働けるために、思いやりを大切にしていきたい

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	・コロナ禍における1号・2号園児の預かり保育のニーズに可能な限りの対応に務めたが、まだまだ課題は残っている。 ・業務の効率化においては、教職員体制と勤務体制の見直しとICTサービスの導入により部分的に円滑な体制を構築することができた。しかしまだ課題は多い。 ・資質向上のための園内研修は、昨年度と比較して大幅に前進できたと考える。 ・行事の見直しについても、森のようちえんをクラス単位で実施できるようにすることで、子どもに即した保育内容の充実につながり、各クラスで必要な活動計画の見通しをもてるようになった。 ・安全対策・安全点検については、日々の保育の中で関わる保育者同士が声を掛け合いながら何重の確認を徹底し、子どもたちの所在をしっかりと把握していくことに努めた。問題が起きた際は迅速な対応に努め、再発防止をまた、設備等々の定期的な点検に努め、必要に応じて修繕を行った。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1号・新2号園児の預かり保育	まだ職員体制の工夫が必要。また、コロナ感染防止対策による制限はあるが、その中で幼稚園全体業務の見直しを図りながら様々な要

	望に柔軟な対応ができるよう努力する。
業務の効率化	保育と事務業務の時間確保できるようなシフト調整の工夫。ICT環境を更に整備し、より効率的かつ園児家庭のためになるような活用の充実を推進していく。
資質向上のための研修の充実	研修内容が日々の保育に直結するもの、より質の高い保育に活かされるものであるかを熟慮した上で計画し、適切なタイミングで実施していく。
行事の見直し	子どもの成長に最も大切なことは何か、それらが確実に育てられる内容であるか、見通しと計画性ある内容であるか、適切な時期であるかをしっかり見直し、保育者が十分時間をかけて準備し、子ども達も十分に組み入れる時間が確保され達成感を味わえる形をつくっていく。
安全対策・安全点検	施設設備の定期点検と安全対策の強化。防災、防犯等のマニュアル作成と配布。昨年に引き続き、避難訓練の充実、特に防犯（不審者侵入、危険物発見など）訓練や円滑な保護者引き渡し訓練。

※記入に際しての留意点

○「3. 評価項目の達成および取り組み状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取り組みの状況、評価結果の根拠を記入する。

○「4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、3. を総合的に評価して記入する。

○「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。

○この用紙を作成するにあたり、教職員の自己評価表や、個々の指標や基準等を評価する補助シートを作成すること考えられる。